

[VI] 大川村村民検診の10年間における評価に関する研究

井上 和 男	本川村国保診療所 (高知県)
浦口 武 男	大川村国保小松診療所 (高知県)
溝 淵 和 久	本山町立嶺北中央病院 (高知県)
浪 越 泰	〃
矢野 哲也	〃
島崎 達也	岡林病院 (高知県)

はじめに

高知県大川村では、昭和56年(1981年)より15才以上の全村民を対象として村民健診が行なわれている。健診は村唯一の医療機関である村立診療所において自治医科大学卒業医師によって継続的に行なわれ、平成2年度において健診開始より10年が経過した。人口わずか800人ほどの小山村ではあるが、毎年400人前後が受診している。このため今回、健診の実際を紹介し、分析可能な健診データを用いて解析した結果を提示した。健診データのなかでは特に血圧、血清コレステロール、肥満度に着目し評価を行なった。

健診内容

対象者は原則的に15才以上で村内に住民票を有する者全員である。しかし実際には居住していないものも多く、村では実際に居住を把握できた者全員にたいして年度初めに予定の受診日を郵送にて知らせている。予定受診日には高齢者等交通手段を持たない者のために輸送車を出している。受診者は予定日が不都合なときにはあらかじめ連絡することにより受診日の変更ができる。健診は毎年5月から10月にかけて行なわれる。その後未受診者にたいして再度受診をすすめる、いわゆる「拾い健診」が行なわれている。健診カードは受診者ごとに作られ、年度毎の結果が追記される。

健診前日夜から受診者は水分および食物の摂取が制限される。常用薬剤は健診当日の朝のみ内服が中止される。

尿検査は試験紙法で蛋白、糖、潜血の定性検査を行なっている。血圧測定は通常の水銀血圧計を使用している。(10年間で同一の看護婦が測定。)血液検査は採血は診療所で行なうが、検査自体はすべて嶺北中央病院臨床検査室に依頼している。健診後の事後処置としては、健診結果の送付に加えて月1-2回医師、看護婦、保健婦を交えて訪問指導などの話し合いが行なわれている。

評価方法

1981年より90年までの10年間の受診者カードから結果を抽出した。延べ3891人分の評価可能な記録が得られた。各人の健診カードから結果がデータベースに入力された。評価項目により、各年度ごとと、のべ10年間の全健診(年代別評価を含める)のどちらかあるいは両方を併用した。

健診結果

(1) 受診状況

1981年より10年間の健診者数、対象人口、健診率、男女の健診者数を表1に示した。また健診者数と健診率の推移を図1に示した。対象人口は毎年度初めにおける住民基本台帳より算定したもので、実際には村内に居住していない者も含まれる。これより10年間における受診率は56.6%と算定された。しかし村が居住を把握し、健診の案内を出した者はこれより年平均160人ほど少なく、これより算定された受診率は10年間平均で74.4%となっている。なお、82年度において受診率の著しい落ち込みがみられるが、これはこの年度のみ試験的に健診の案内を中止して自発的に受診させたものである。以後はまた案内を出すことにして、毎年60%前後の安定した受診率となっている。なお年平均の受診者数は389.1人であった。

各年度における受診者の平均年齢を表2に示した。大川村は典型的な山村で、65才以上のいわゆる老人比率は20%を越えている。このため毎年度における受診者の平均年齢は上昇傾向にあるが、10年間で全健診者で4.6才の上昇にとどまっている。性別では男性で3.1才と少ないのに比べ、女性では5.9才と上昇の度合いが多かった。

受診者数や受診率は、転勤など異動の少ない山村であること、郵送にて受診日を予約するシステムであること、患者輸送車を利用していること、人口が少ないため未受診者のピックアップが容易なこと、そして拾い健診を行なっていることから比較的良好であると考えられる。

(2) 健診回数の分布

全健診者の10年間における受診回数の分布を図2に示した。平均受診回数は5.5回である。受診回数は1、2回の少ない群と9、10回のほとんど毎年受診している群が多い。これは、受診者の集団が「ほぼ毎年受診する集団」と「1、2回しか受診しない集団」に分極しているためと思われる。

(3) 年代別健診者数

年代別の総健診者数、男女別の健診者数を図3に示した。総受診者、男性受診者、女性受診者のいずれにおいても50才台を頂点とした山型の分布がみられた。総受診者の平均年齢は57.1(±17.6)才、男性受診者の平均年齢は55.9(±18.7)才、女性受診者の平均年齢は58.2(±16.5)才であった。注目すべきこととして、30才台までは男性に比べ女性受診者の数が少ないが、40才以降逆転し、女性受診者が多くなっていた。これは若い世代では山村における若年女性の減少を、高齢では女性の長寿命を反映していると思われる。

(4) 高血圧

表3は年度別の拡張期血圧が90mmHg以上であった受診者の比率と平均血圧を示している。比率は年度によって10%から20%までとばらついている。また平均血圧のばらつきは72から80mmHgの範囲であった。

表4は年代別に拡張期血圧が90mmHg以上であった受診者の比率、そして実際に高血圧治療を受けている受診者の比率を示したものである。両方ともおおむね年齢が高くなるとともに上昇している。

表5は収縮期血圧が160mmHg以上であった受診者の比率、そして表4と同じく薬剤による高血圧治療を受けている受診者の比率を示したものである。この場合も同様に年齢が高くなるとともにおおむね上昇している。

図4は年代別に拡張期血圧および収縮期血圧の高かった受診者の頻度と、高血圧にて治療を受けている受診者の頻度を比較のため示したものである。50代までは拡張期血圧の高かった受診者の頻度が治療頻度を上回っているが、60代以降にはその現象が逆転している。治療頻度との比較では、50才代以下で拡張期高血圧群(90mmHg以上)の頻度が治療頻度より低かった。これは、働き盛りの壮年層以下で薬物治療をうけていない高血圧受診者が多いことが考えられる。

(5) コレステロール

表6は年度別の血清コレステロール値の平均値を示したものである。いずれの年度でも女性の平均値は男性の平均値よりも高かった。ただし、86年と87年で平均コレステロール値の10mmHg程度の低下が見られているが、この原因は不明である。(嶺北中央病院では10

年間で測定機器および試薬などの変更はない。)

表7は年代別の血清コレステロール値の平均値を示したものである。全健診者、女性、男性のいずれにおいても加齢に伴って平均値が上昇し、5、60才代でピークとなり、8、90才代では再び低下している。

図5は年代別に血清コレステロール値が220mg/dl以上であった受診者の頻度を図示したものである。これでは、全体では同じく加齢に伴い上昇し60才代でピークとなり、8、90才代で低下している。しかし性別では男性が40才代をピークにしてそれ以降むしろ低下しているのと対照的に、女性では60才代まで急激な上昇がみられ、その後低下はするものの男性よりはるかに高頻度を維持している。

なお、のべ3891人の健診データ中、薬剤による高脂血症の治療を受けている受診者は延べ41人で、個人としては12名であった。

(6) 肥満度

肥満度は標準体重を(身長-100)×0.9で計算し、測定体重-標準体重/標準体重の百分率で算出した。身長、体重のデータがそろっていた延べ3786人において肥満度が算定された。

表8は全健診者、男性、女性の肥満度の10%毎の延べ人数を、図6は実際の度数分布を示したものである。なお、0%台は肥満度0から9.9%までを意味している。度数分布の範囲は-2.0%台から+4.0%台までとなっており、それ以外の極端なやせまたは肥満度を示したものはいなかった。いずれの群でも0%台を頂点とし、右側によりゆるやかな山形の分布を示しているが、女性に肥満群が多い傾向がある。

表9、10、11は肥満度別に全健診者、男性、女性の肥満度別の各検査値異常(拡張期血圧 ≥ 90 mmHg、収縮期血圧 ≥ 160 mmHg、コレステロール ≥ 220 mg/dl、トリグリセリド ≥ 150 mg/dl、HDL ≤ 35 mg/dl、 β リポ蛋白 ≥ 500 mg/dl、尿酸 ≥ 7.0 mg/dl、空腹時血糖 ≥ 105 mg/dl)の頻度を示したものである。

図7は全健診者の表をグラフで図示したものである。拡張期血圧、収縮期血圧、コレステロール、トリグリセリド、 β リポ蛋白、空腹時血糖などが肥満度にたいして右上がりの度数分布を示している。t検定において尿酸以外の全項目で、有意($p < 0.0001$)の結果が得られた。(HDLのみ逆相関、他はすべて正相関であった。)

母集団から循環器疾患などの治療群を除外していないため、あくまで参考にすぎないがこれにより肥満は血圧、血清脂質、血糖との関連が示唆された。

(7) アルコール、喫煙

表12、13はそれぞれアルコール、喫煙の嗜好について延べ3891人中、得られたデータでまとめたものである。分類はアルコールでは(-)が飲まない、(+)が時々飲む、(2+)が毎日飲むであり、喫煙では(-)が吸わない、(+)が過去に吸った、(2+)が現在吸うである。

さらに、図8はアルコールについて、図9は喫煙についておのおのの延べ人数を図示したものである。

アルコールでは女性は飲酒者が少なく、男性は逆に飲酒者が多くなっている。喫煙では女性是非喫煙者が圧倒的に多いが、(+)よりは(2+)が多くなっている。男性は(-)と(2+)がほぼ同数で(+)が少ないV字型の度数分布を示している。

(8) 尿検査

表14、15、16はのべ3891人の尿検査所見（尿蛋白、尿糖、尿潜血の順）を示したものである。陽性率は母集団にたいする偽陽性（±）以上の頻度で算定した。（？は不明ないし検査をしなかった集団である。）尿蛋白の陽性率は男女でほぼ同率であるが、尿糖では男性が女性のほぼ2倍、また尿潜血では逆に女性が男性のほぼ2倍になっている。

（9）血液検査

図17は血液検査（コレステロール以外）について、延べ3891人中得られた全データについて平均値および標準偏差を示したものである。（血液検査は全員でデータが得られているわけではないが、検体数は省略した。）

その結果、

- 1 各検査の平均値は全健診者、男性、女性のいずれもがいわゆる正常範囲内にあった。
- 2 性別による有意差が、赤血球数、ヘモグロビン濃度、ヘマトクリット、白血球数、総蛋白、ALP、GOT、GPT、LDH、 γ GTP、chE、bLipo、UAでみられた。逆に有意差のなかったのは、TG、HDL-C、FBSであった。（t検定を使用、p値は表中の各検査項目欄に記載。）
- 3 γ GTPについては平均値よりも標準偏差が大きく、したがって検査値のばらつきが大きいものと思われた。

（10）死亡および転出

10年間において健診対象者から計93名の転出があった。うち36名（39%）は小学校および中学校の教員であった。

同様に10年間において健診対象者から62名の死亡があった。その内訳を表18に示した。死亡原因としては悪性腫瘍、心疾患、脳血管疾患が多く、この3者の合計で死因が判明している集団の約2/3を占めた。

まとめ

大川村では前述したとおり、村民健診が診療所で、しかも継続的に自治医科大学卒業医師によって行なわれている。一人の医師の赴任期間は2年であり、10年間の間に計5人が関わっている。このような状況では均一なレベルの施設健診を継続することがかならずしも容易ではない。また日常診療に加えて健診業務が加わるため医師や診療所スタッフに負担がかかる。それゆえ10年間継続できたことはそれ自体意味があると思われる。また受診予定者から算定された受診率が10年平均で75%であり、1年をのぞきほぼ安定した受診率を維持していることは評価できよう。

今回我々は、10年間にわたる健診全体と健診結果（血圧、コレステロールその他の血液検査、肥満度等）に着目して評価を行なった。その結果各項目で述べたようにいくつかの興味深い結果が得られた。

勿論、さらに詳しい検討が必要とされる点も多い。例えば、各検査項目の厳密な相関をみるためには母集団から評価に値する集団を抽出する必要がある。また、健診の主目標である住民の健康管理の成果が実際に反映された結果（たとえば10年の健診で高血圧患者の減少がみられたというような）が十分得られなかったのは残念である。しかしながら、各項目で説明したように村民の大部分を占められると思われる受診者の全体的な傾向がある程度判明した。また、この記録はこれまで有効なデータとして処理しうる状態で保存されていなかったが、今回の研究でそれが達成された。これにより、将来も続けられると思われる健診の基礎資料ができたので、以後の蓄積は容易になると思われる。また、健診資料がより容易に診療所の日常診療にも役立つことが期待されよう。

結論

- 1 大川村村民健診が81年より10年間にわたって行なわれ、総受診数は3891人であった。
- 2 10年平均の算定受診率は56.6%であり、82年を除きほぼ安定していた。
- 3 10年間の受診回数の平均は5.5回であるが、受診回数の多い者と少ない者に2分化する傾向があった。
- 4 受診者の平均年齢は57.1才であった。性別では女性の平均値が男性より多かった。
- 5 拡張期血圧、収縮期血圧の高い受診者の比率、そして高血圧治療を受けている受診者の比率はおおむね年代の上昇につれ増加していた。
- 6 働き盛りと思われる中壮年層では拡張期血圧の高い受診者の比率が高血圧治療（薬剤による）の比率を上回っていた。
- 7 コレステロールは10年間を通じて女性の平均値が男性より高かった。
- 8 血清コレステロール値の平均値は全健診者、女性、男性とも5、60年代にピークがみられた。高コレステロール血症（ $\geq 220\text{mg/dl}$ ）の頻度は、中高年であきらかに女性に多かった。
- 9 肥満度では、女性に高度肥満群が多い傾向があった。また肥満度は血圧、血清脂質、血糖などと有意の関連が示唆された。
- 10 嗜好習慣では、アルコールでは女性では飲まない者が、男性では飲む者が多かった。たばこでは女性是非喫煙者が圧倒的に多く、男性では非喫煙者と喫煙者に2分していた。
- 11 検尿では、尿蛋白の陽性率は男女ほぼ同じであるが、尿糖陽性は男性に、尿潜血陽性は女性に多かった。
- 12 血液検査の平均は全健診者、男性、女性のいずれもがいわゆる正常範囲内にあった。また性別による有意差が、赤血球数、ヘモグロビン濃度、ヘマトクリット、白血球数、総蛋白、ALP、GOT、GPT、LDH、 γ GTP、chE、bLipo、UAでみられた。
- 13 10年間における健診対象者の死亡は62名であった。死亡原因としては悪性腫瘍、心疾患、脳血管疾患が多かった。

表1 健診の各成績

健診年度	健診者数	対象人口	健診率	男性	女性
81	372	741	50.2%	185	187
82	241	741	32.5%	103	138
83	377	718	52.5%	177	200
84	449	690	65.1%	210	239
85	448	678	66.1%	208	240
86	413	665	62.1%	195	218
87	447	665	67.2%	204	243
88	389	663	58.7%	178	211
89	383	658	58.2%	179	204
90	372	652	57.1%	180	192
計	3891	6871	56.6%	1819	2072

表2 受診者の平均年齢

年度	全健診者	男性	女性
81	54.1 (16.2)	54.2 (16.3)	54.1 (16.1)
82	58.1 (15.9)	57.8 (17.1)	58.4 (15.0)
83	55.2 (17.1)	53.3 (18.3)	56.8 (15.8)
84	56.4 (16.9)	55.3 (17.2)	57.4 (16.6)
85	56.9 (17.1)	55.6 (18.0)	58.2 (16.3)
86	57.4 (16.8)	56.0 (16.9)	58.6 (16.7)
87	57.2 (17.2)	54.8 (17.3)	59.1 (16.8)
88	59.0 (22.4)	58.6 (27.7)	59.2 (16.7)
89	58.2 (17.7)	56.9 (18.1)	59.3 (17.2)
90	58.7 (16.6)	57.3 (17.2)	60.0 (16.1)

() 内は標準偏差

図1 健診者数と健診率の推移

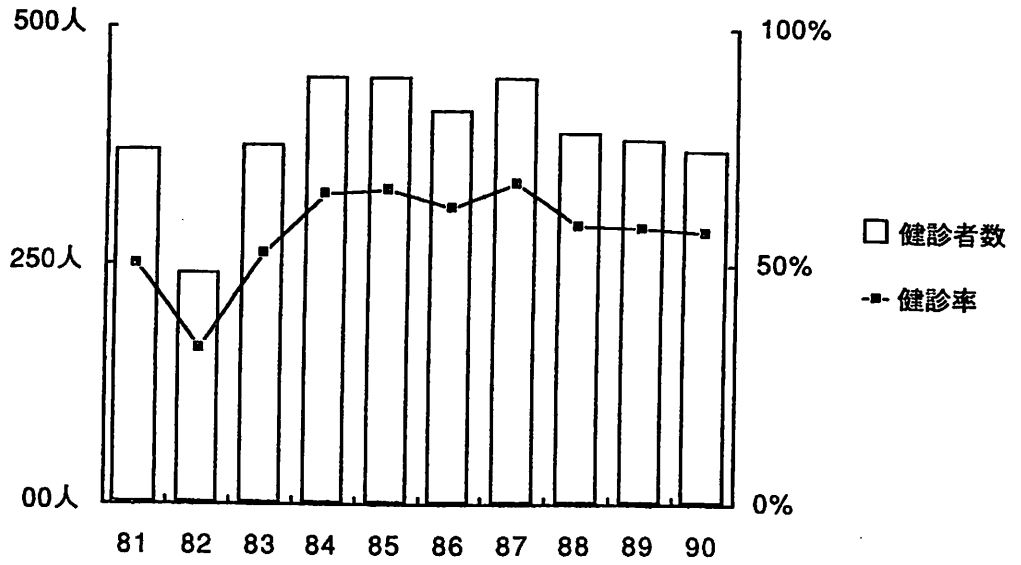


図2 健診回数の分布

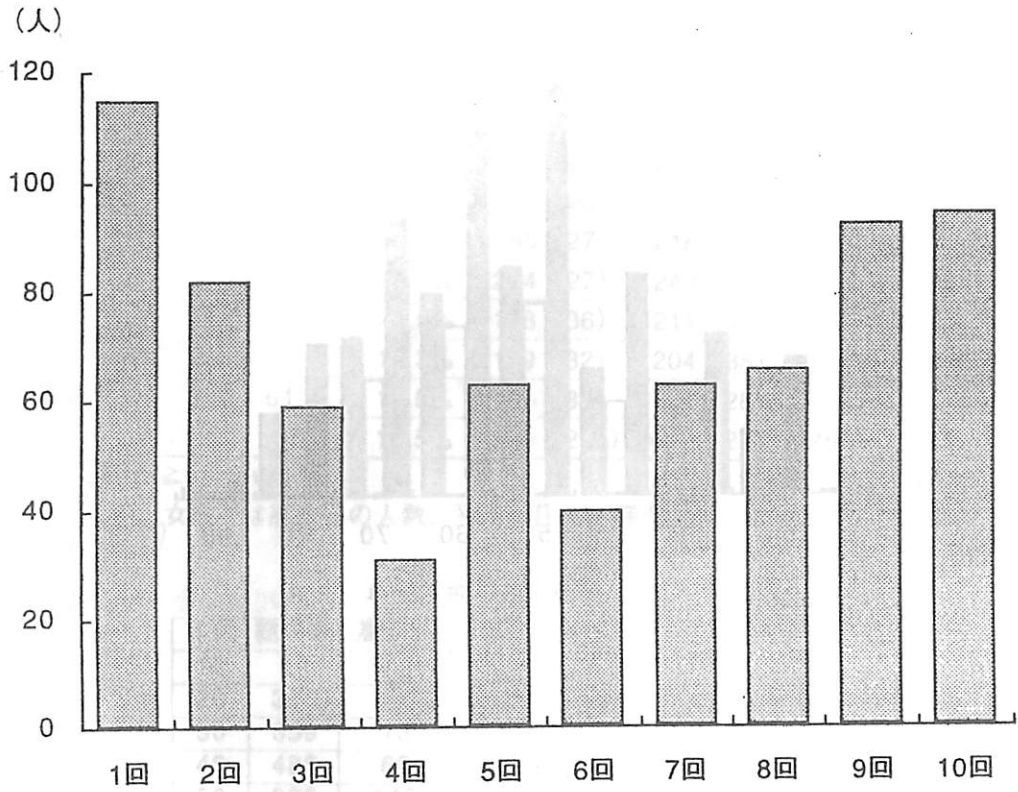


図3 年代別健診者数

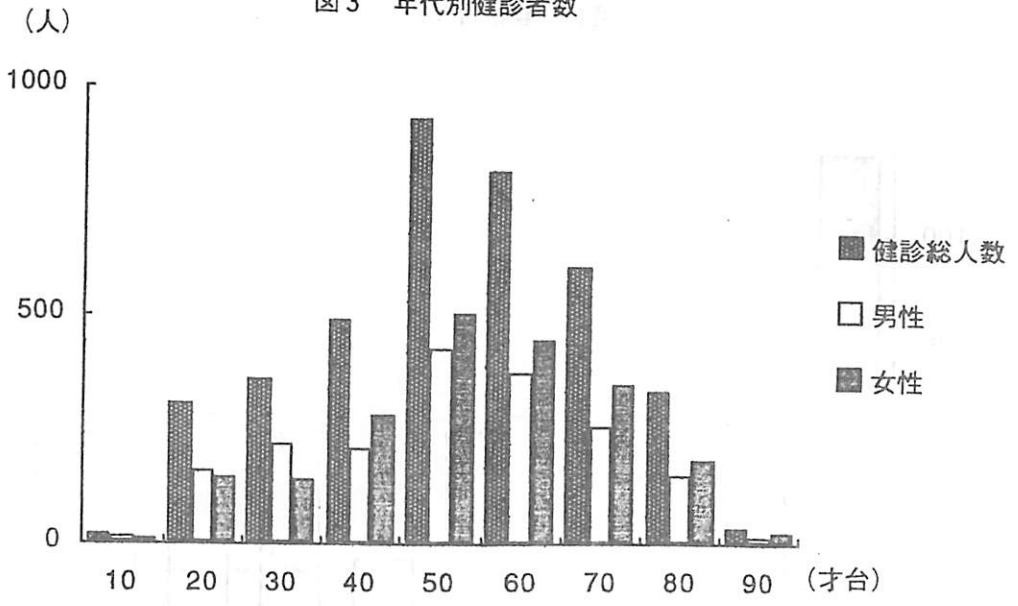


表3 年度別血圧分布

年度	健診者数	高血圧 (*)	頻度	男性	女性	平均血圧
81	372	54	14.5%	185 (33)	187 (21)	75.6 (11.6)
82	241	48	20.3%	103 (24)	138 (24)	79.7 (11.2)
83	377	59	15.8%	177 (32)	200 (27)	75.6 (13.3)
84	449	45	10.3%	210 (32)	239 (13)	74.0 (11.9)
85	448	48	10.6%	208 (20)	240 (28)	74.2 (11.0)
86	413	50	12.2%	195 (27)	218 (23)	73.7 (13.1)
87	447	49	11.1%	204 (27)	243 (22)	72.0 (12.8)
88	389	84	21.5%	178 (36)	211 (48)	78.7 (11.4)
89	383	70	18.3%	179 (32)	204 (38)	78.5 (11.0)
90	372	61	16.5%	180 (33)	192 (28)	77.2 (10.7)
計	3891	568	16.5%	1819 (296)	2072 (272)	75.6 (12.0)

*拡張期血圧 \geq 90mmHg

() は男性、女性では高血圧の人数、平均血圧では標準偏差

表4 年代別拡張期高血圧の統計

年代	総人数	高血圧	頻度	治療人数	治療頻度
10	19	0	0.0%	0	0.0%
20	305	2	0.7%	0	0.0%
30	359	13	3.6%	0	0.0%
40	488	60	12.3%	29	5.9%
50	930	145	15.6%	93	10.0%
60	816	151	18.5%	188	23.0%
70	606	125	20.6%	229	37.8%
80	334	61	18.3%	149	44.6%
90	33	10	30.3%	12	36.4%
合計	3890	567	14.6%	700	18.0%

拡張期血圧 \geq 90mmHg

表5 年代別収縮期高血圧の統計

年代	総人数	高血圧	頻度	治療人数	治療頻度
10	19	0	0.0%	0	0.0%
20	305	0	0.0%	0	0.0%
30	359	0	0.0%	0	0.0%
40	488	16	3.3%	29	5.9%
50	930	85	9.1%	93	10.0%
60	816	96	11.8%	188	23.0%
70	606	142	23.4%	229	37.8%
80	334	118	35.3%	149	44.6%
90	33	12	36.4%	12	36.4%
合計	3890	469	12.1%	700	18.0%

収縮期血圧 \geq 160mmHg

図4 年代別高血圧および治療頻度

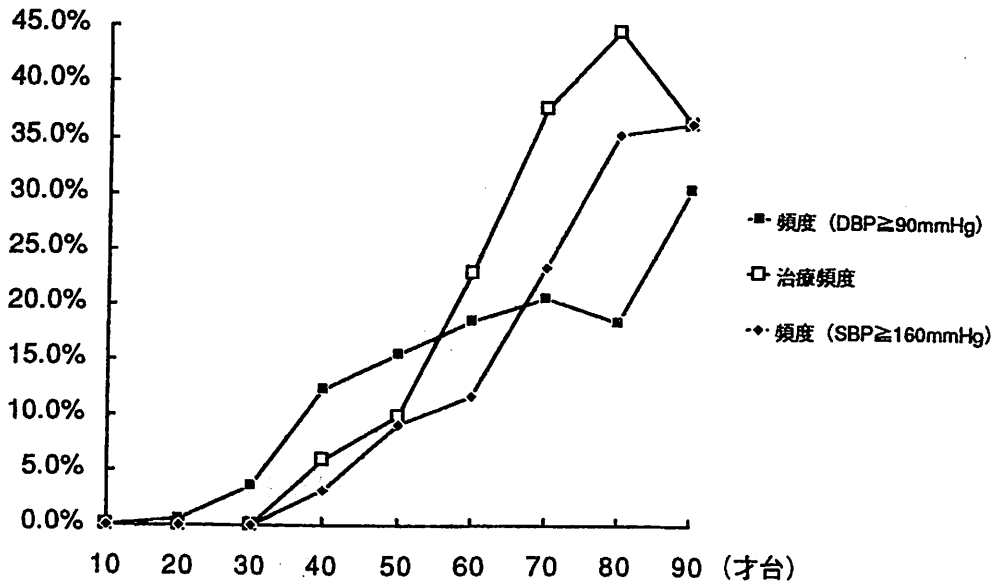


表6 年度別血清コレステロール値の推移

年度	全健診者	女性	男性
81	199.7 (40.7)	204.6 (43.0)	194.9 (37.6)
82	193.1 (41.3)	200.0 (44.1)	183.9 (35.4)
83	190.5 (44.8)	203.3 (48.1)	185.3 (38.7)
84	191.4 (39.3)	196.8 (40.8)	185.2 (36.5)
85	196.3 (41.8)	204.6 (42.8)	186.7 (38.4)
86	195.6 (47.1)	204.8 (51.5)	185.2 (39.3)
87	185.7 (40.3)	192.0 (43.0)	178.3 (35.6)
88	186.9 (36.9)	193.5 (38.3)	179.2 (33.7)
89	189.1 (38.1)	194.2 (39.7)	183.3 (35.4)
90	182.8 (37.5)	191.0 (37.8)	174.0 (35.3)

() 内は標準偏差

表7 年代別コレステロール値の推移

年度	全健診者	女性	男性
10	168.2 (22.0)	179.7 (26.2)	162.4 (18.1)
20	172.9 (37.5)	171.1 (35.7)	174.6 (39.1)
30	176.2 (34.3)	171.4 (36.0)	179.2 (32.9)
40	191.4 (46.4)	191.5 (48.7)	191.2 (43.3)
50	197.7 (39.7)	205.4 (39.8)	188.8 (37.6)
60	198.9 (39.7)	209.2 (41.7)	186.7 (33.4)
70	193.9 (40.2)	201.9 (41.9)	183.3 (35.1)
80	186.5 (42.5)	199.0 (43.0)	171.3 (35.1)
90	183.9 (45.3)	199.7 (47.0)	153.9 (20.6)

() 内は標準偏差

図5 年代別高コレステロール受診者の分布

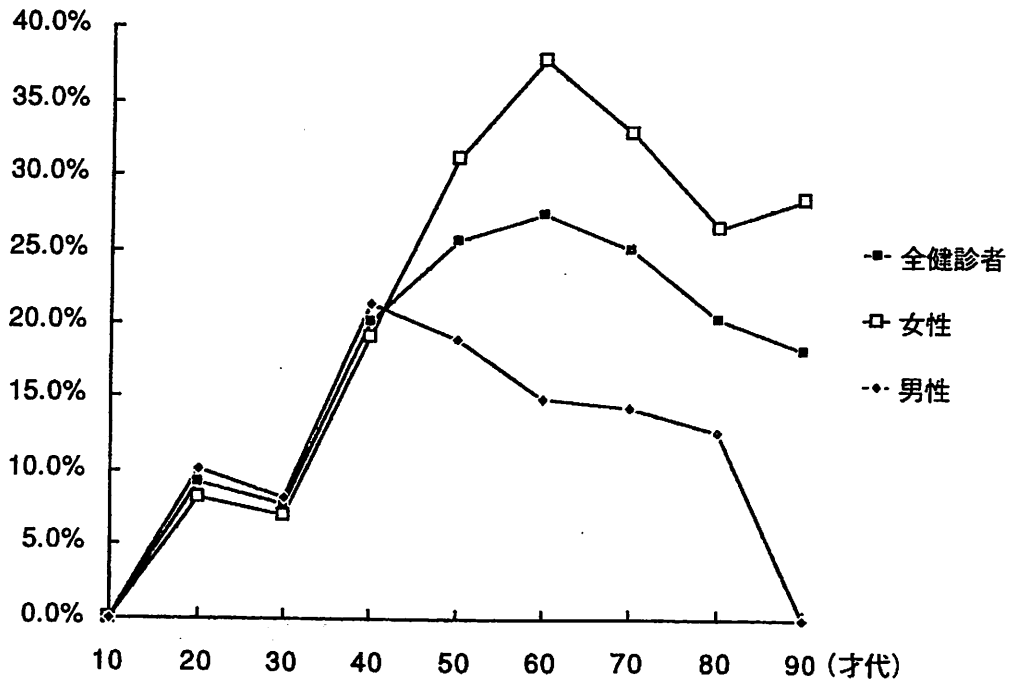


表8 肥満度の分布状況

肥満度	全健診者	男性	女性
-20%台	297	198	99
-10%台	715	455	260
0%台	1024	561	463
10%台	757	323	434
20%台	491	163	328
30%台	289	56	233
40%台	213	22	191
計	3786	1778	2008

図6 肥満度の度数分布

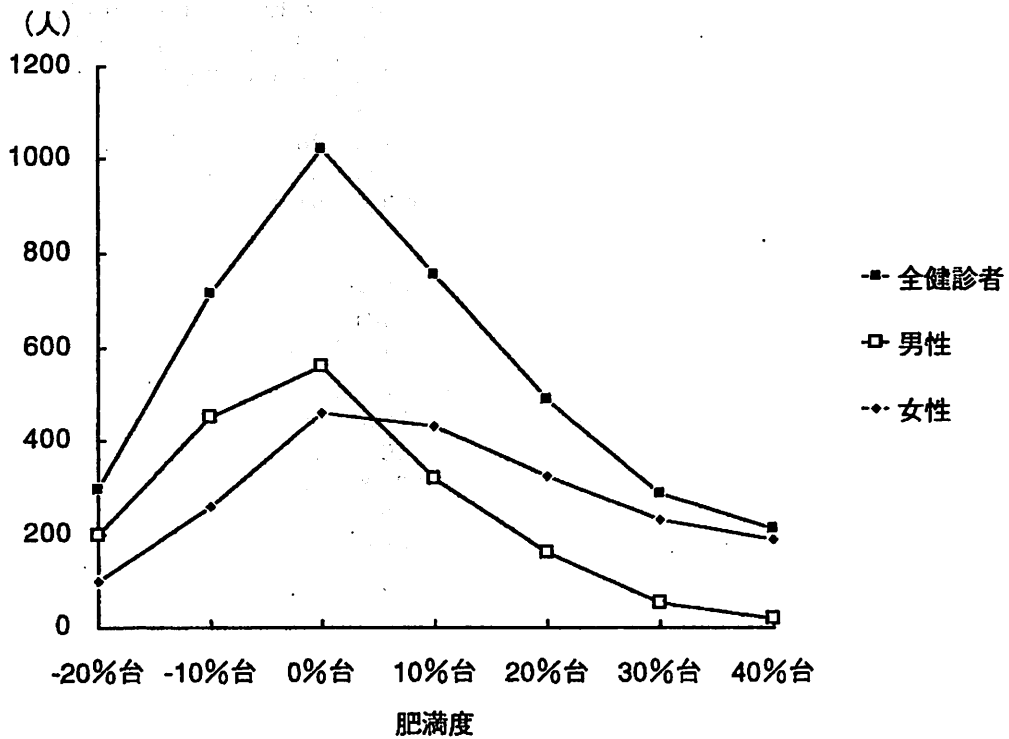


表9 全健診者における各検査異常の比率

肥満度	延べ人数	%DBP	%SBP	%chol	%TG	%HDL	%bLP	%UA	%FBS
-20%台	297人	8.4%	8.4%	8.1%	2.4%	4.4%	6.1%	5.4%	11.4%
-10%台	715人	10.8%	9.5%	14.0%	8.7%	6.2%	8.8%	10.5%	12.2%
0%台	1024人	11.5%	9.1%	18.5%	11.0%	6.3%	14.1%	7.7%	16.2%
10%台	757人	14.7%	10.0%	21.8%	19.3%	7.9%	17.8%	11.0%	20.3%
20%台	491人	18.5%	16.3%	30.8%	23.6%	7.1%	25.9%	8.6%	20.4%
30%台	289人	21.8%	14.5%	34.9%	21.8%	6.6%	29.1%	9.3%	19.0%
40%台	213人	29.6%	22.1%	43.2%	25.4%	7.0%	38.0%	5.6%	35.7%
計	3786人	14.5%	11.4%	21.7%	14.8%	6.6%	17.2%	8.8%	17.7%

表10 女性における各検査異常の比率

肥満度	女性	%DBP	%SBP	%chol	%TG	%HDL	%bLP	%UA	%FBS
-20%台	99人	11.1%	10.1%	14.1%	2.0%	1.0%	9.1%	3.0%	9.1%
-10%台	260人	5.8%	5.4%	15.8%	4.6%	3.5%	7.3%	3.1%	9.2%
0%台	463人	7.8%	5.8%	22.5%	9.5%	4.8%	19.0%	1.3%	13.0%
10%台	434人	12.0%	9.2%	24.7%	15.7%	7.1%	17.5%	3.9%	17.1%
20%台	328人	17.4%	18.6%	34.8%	20.1%	4.6%	27.4%	4.3%	17.7%
30%台	233人	17.2%	14.6%	35.6%	20.6%	7.7%	28.8%	6.4%	19.3%
40%台	191人	25.7%	20.4%	46.1%	24.1%	6.8%	39.8%	3.7%	33.0%
計	2008人	12.9%	11.2%	27.4%	14.2%	5.4%	21.2%	3.5%	16.6%

表11 男性における各検査異常の比率

肥満度	男性	%DBP	%SBP	%chol	%TG	%HDL	%bLP	%UA	%FBS
-20%台	198	7.1%	7.6%	5.1%	2.5%	6.1%	4.5%	6.6%	12.6%
-10%台	455	13.6%	11.9%	13.0%	11.0%	7.7%	9.7%	14.7%	13.8%
0%台	561	14.6%	11.8%	15.2%	12.3%	7.5%	10.0%	13.0%	18.9%
10%台	323	18.3%	11.1%	18.0%	24.1%	9.0%	18.3%	20.4%	24.8%
20%台	163	20.9%	11.7%	22.7%	30.7%	12.3%	22.7%	17.2%	25.8%
30%台	56	41.1%	14.3%	32.1%	26.8%	1.8%	30.4%	21.4%	17.9%
40%台	22	63.6%	36.4%	18.2%	36.4%	9.1%	22.7%	22.7%	59.1%
計	1778	16.2%	11.6%	15.2%	15.5%	7.9%	12.8%	14.8%	19.1%

図7 肥満度別各検査値異常の頻度分布 (全受診者)

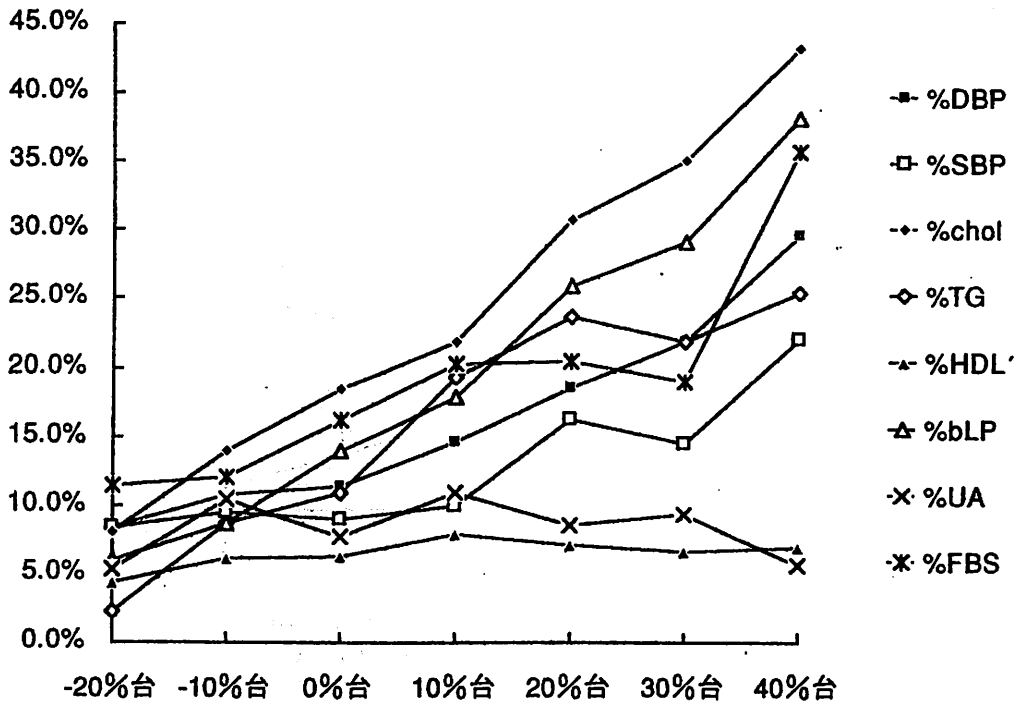


表12 アルコールの嗜好分布

	-	+	2+	計
全健診者	1768	933	845	3546
女性	1393	442	59	1894
男性	375	492	785	1652

表13 喫煙の嗜好分布

	-	+	2+	計
全健診者	2566	206	780	3552
女性	1822	10	62	1894
男性	744	196	718	1658

図8 アルコール嗜好の分布

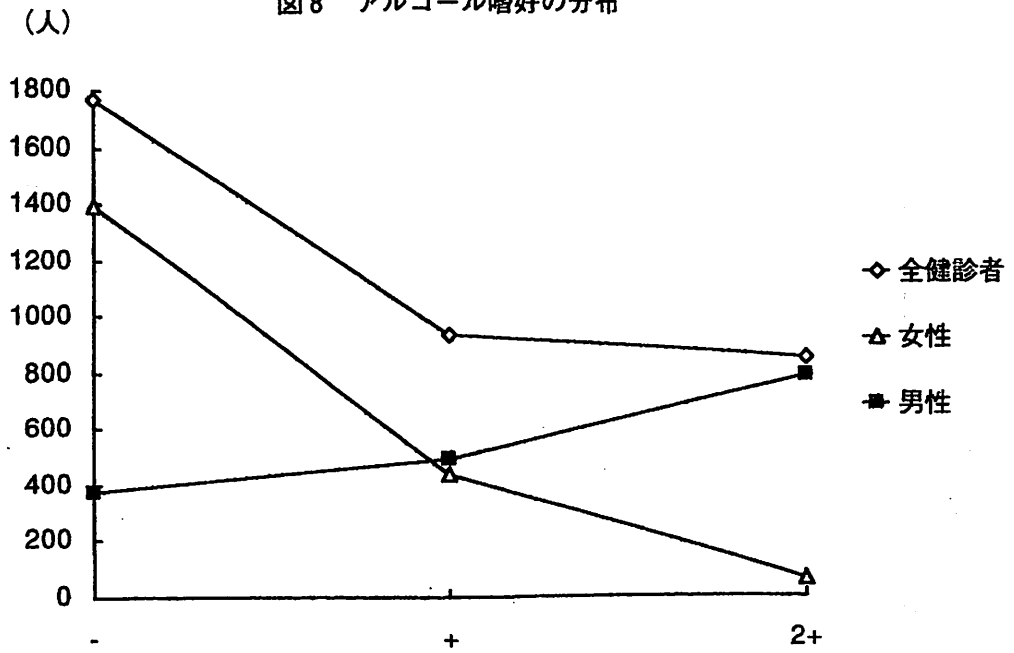


図9 喫煙嗜好の分布

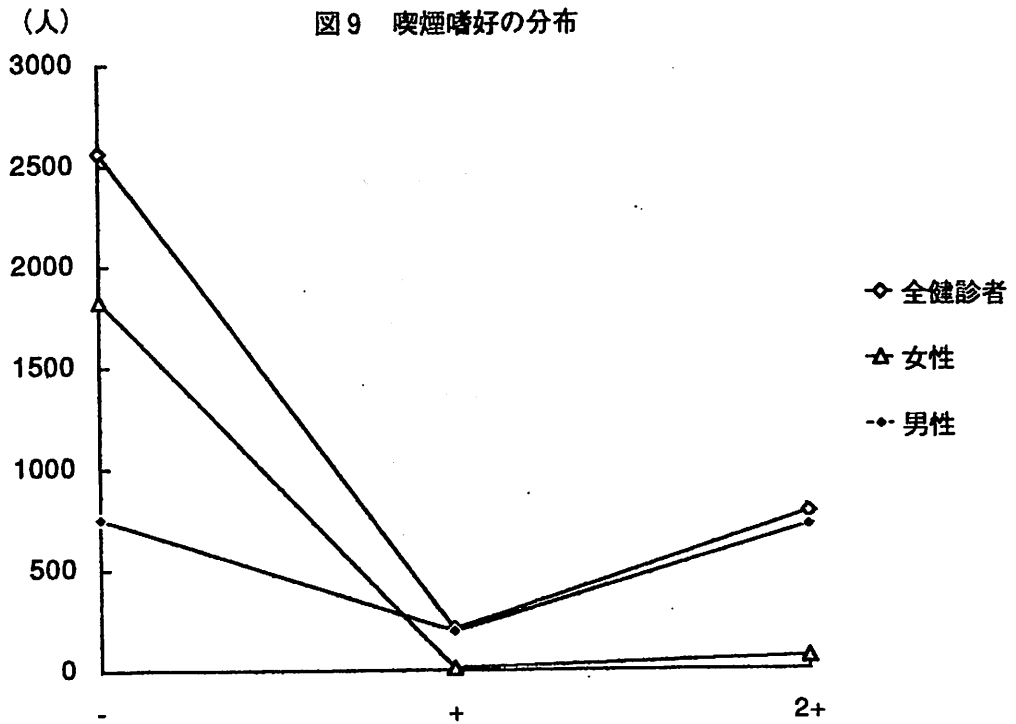


表14 尿蛋白

性別	-	±	+	2+	?	計	陽性率
女性	1832	85	68	5	82	2072	7.63%
男性	1605	82	67	8	57	1819	8.63%

表15 尿糖

	-	±	+	2+	?	計	
女性	1981	2	4	3	82	2072	0.43%
男性	1751	4	6	6	52	1819	0.88%

表16 尿潜血

	-	±	+	2+	?	計	
女性	1397	179	267	138	91	2072	28.19%
男性	1523	125	101	20	50	1819	13.52%

表17-1 血液検査1

	RBC	SD	Hb	SD	Ht	SD	WBC	SD	TP	SD	ALP	SD
全受診者	442.6	47.7	14.0	1.6	40.3	4.4	5154	1410	7.08	0.50	169.3	60.8
女性	424.7	40.1	13.2	1.3	38.2	3.7	4901	1294	7.14	0.46	170.0	58.9
男性	463.1	47.5	15.0	1.4	42.7	4.0	5437	1487	7.02	0.51	167.0	53.8
p	0.0001		0.0001		0.0001		0.0001		0.0001		0.0068	

表17-2 血液検査2

	GOT	SD	GPT	SD	LDH	SD	γGTP	SD	chE	SD	bLipo	SD
全受診者	21.9	12.6	14.0	11.1	370.5	86.1	26.8	50.9	1.0	0.3	406.7	123.0
女性	19.3	7.2	11.5	7.8	373.8	84.7	17.5	22.5	1.0	0.3	424.2	126.2
男性	24.2	16.0	16.6	13.0	360.7	87.2	32.5	39.5	0.9	0.3	387.0	116.3
p	0.0001		0.0001		0.0001		0.0001		0.0001		0.0001	

表17-3 血液検査3

	TG	SD	HDL-C	SD	UA	SD	FBS	SD
全受診者	104.5	58.5	56.7	15.8	4.9	1.5	93.9	18.7
女性	102.5	50.6	56.9	15.3	4.4	1.2	93.3	18.8
男性	106.7	66.3	56.5	16.3	5.5	1.5	94.6	18.5
p	0.3791		0.9009		0.0001		0.0918	

表18 死亡原因

悪性腫瘍	心疾患	脳血管疾患	事故	その他	不明	計
11	8	10	6	8	19	62